

プログラム名	Advanced Programs 「リーダーシップ・チャレンジ in 台湾」																							
実施日	平成 25 年 8 月 18 日（日）～8 月 25 日（日）																							
実施先	台湾・国立高雄第一科技大学（台湾）																							
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>香川大学</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学・短期大学</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>6大学 合計：16 名</td> <td>4</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>			大学名	教職員	学生	香川大学	1	1	山口大学		5	愛媛大学	2	3	京都外国語大学・短期大学	1	2	京都文教大学		1	6大学 合計：16 名	4	12
大学名	教職員	学生																						
香川大学	1	1																						
山口大学		5																						
愛媛大学	2	3																						
京都外国語大学・短期大学	1	2																						
京都文教大学		1																						
6大学 合計：16 名	4	12																						
完了報告	<p>国際社会で活躍するために求められるリーダーシップや英語でのコミュニケーションスキル、異文化理解力等を養うことを目的とし、台湾・タイ・日本の 3ヶ国の学生が集まり 7泊 8 日の共同研修プログラムを行った（於：台湾・国立高雄第一科技大学）。日本からは、UNGL 又は自大学のリーダーシップ・プログラムが実施する研修に参加した経験を有する学生、又は今後国内外でリーダーシップを発揮したいと考えており、UNGL 連携校の教職員が推薦する学生が参加した。</p>																							
<p>【プログラムの目的】 UNGL の Advanced Programs として、複数の国から集まる学生と協働して討議・交流・発表を行い、それらを通してグローバル社会において求められるリーダーシップのスキル・知識・態度等を身につけることを目的とする。特に本研修では、実践的な英語でのコミュニケーションスキルや異文化理解力の涵養をねらいとして、7泊 8 日のプログラムを実施した。</p> <p>【プログラムの概要】 参加者数 64 名 （内訳） 日本： 【学生】 5 大学 12 名（香川大学、愛媛大学、山口大学、京都外国語大学、京都文教大学） 【教職員】 3 大学 4 名 タイ： 【学生】 1 大学 14 名（King Mongkut's University of Technology Thonburi: KMUTT） 【教員】 1 大学 1 名 台湾： 【学生】 1 大学 22 名（国立高雄第一科技大学：NKFUST） 【学生運営スタッフ】 8 名 【教職員】 学長他 4 名</p>																								

【スケジュール】		
8/18 (日)	午後	移動 (日本→台湾・高雄) ※一部学生は前日に台北入り。当日、高雄市左営駅にて合流
8/19 (月)	10:10-11:00 11:10-12:00 13:30-15:20 15:30-17:20 19:10-21:00 21:30-22:30	開会式 アイスブレイク・アクティビティ キャンパスツアー ワークショップ①「Lego Workshop for Creative Cross-Cultural Understanding」(高島) ワークショップ②「Don't miss the bus」(秦) ウェルカムナイト～各国文化紹介～ 振り返り
8/20 (火)	08:10-10:10 10:30-12:00 13:30-15:20 15:30-17:20 19:10-21:00 21:30-22:30	ワークショップ③「Survival on the moon」(林・古島) チームトレーニングワークショップ (Mr. David Huang (台湾外部講師) ケーススタディ (Dr. Chi-Fen Chen, 国立高雄第一科技大学学長 部長) ワークショップ④ (Mr. Rom Kenneth B. Sales, KMUTT) ELS/UNGL 説明 (愛媛大学学生、林) タイ大学紹介 (KMUTT 学生) / 台湾大学紹介 (NKFUST 学 振り返り
8/21 (水)	終日 08:10-21:00	フィールド研修 (※台風により GlobalTic Award 延期のためス ジュール変更。) 美濃客家文物館 Meinung Hakka Cultural Museum (傘絵付け体 美濃客家民族村 Meinung Folk Village 国立台湾歴史博物館 National Museum of Taiwan History 夕食：台南市内
8/22 (木)	終日 08:10-21:00	フィールド研修 鳥山頭水庫 Wusanto Reservoir 国立科学工芸博物館 National Science and Technology Museum 愛河見学 夕食：夜市 Liouhe Tourist Night Market
8/23 (金)	08:10-12:00 13:30-17:20 19:00-21:30 21:45-22:30	ディベート サービスラーニング 学生セミナー (書道体験) 振り返り
8/24 (土)	08:10-11:30 11:30-13:30 15:00-21:00	学習成果発表 (各グループ毎) クロージングセレモニー (修了書授与、集合写真) 終了 自由行動・夕食 (高雄市内)
8/25 (日)	早朝	帰国

詳細な活動内容は、下記のとおり。

8月18日 (1日目)

関空出発。一部学生は前日に台湾入り。高雄市左営駅にて当日 17 時頃全員が合流。

高雄空港では、国立高雄第一科技大学 (以下、NKFUST とする) の学生スタッフからの出迎えを受ける。期間中は、NKFUST の学生寮に他の 2ヶ国の学生と共で生活した。教職員は大学内宿泊施設に滞在した。到着後、夕食を取り、



日本側参加者のみでミーティングを開き、自己紹介をすると共に本研修での各自の目標について共有した。



8月19日(2日目)

リーダーシップ・プログラム初日。開会式では、NKFUST 陳振遠 (Dr. Roger C.Y. Chen) 学長が挨拶。各国担当教職員も登壇し、一人ずつ挨拶の言葉を述べた。NKFUST 学生部部長陳其芬 (Dr. Chi-Fen Emily Chen) からは学生に対し、手の5本指の1本1本を、本プログラムで身につけたいスキルに例え、5C (Can-Do (できると信じる), Communication (人との触れ合いを大切にする), Creativity (創造力を発揮する), Caring (他人を気遣う), Collaboration (協働する)) で行動するよう期待すると話があった。



アイスブレイク・アクティビティ (歌・ダンス) ののち、キャンパスツアーを行った。特に学生の勉強スペースは、e-learning のための OA 機器や個人用・グループ用の個室を設ける等、施設設備が充実していた。

午後は、京都外国語大学高島講師によるワークショップ「Lego Workshop for Creative Cross-Cultural Understanding」を開催。ケーススタディを用いてグループワークを行った。グループは、台湾・タイ・日本の学生の混成とした。ケーススタディでは、上司との会議に参加するため何時に出勤するかといった課題が与えられ、グループ内で話し合った。国によって考えに違いがあり、学生達は話し合いを通じて異文化を学び、互いの価値観を共有する場を持つことができた。また、日本・台湾・タイ各国のイメージをレゴブロックで表現しあう等の作業を行った。

次に、愛媛大学秦教授によるワークショップ「Don't miss the bus」を開催。これは個人に与えられた情報を元に、チーム内で情報共有し、最終的な地図を描く作業を行うものである。チームワークの過程の中で、コミュニケーションや作業の現状把握、他のチームメンバーの観察等を通し、チームワークを楽しみつつ自分のリーダーシップの行動の特徴に気づくことを目的とするものであった。

夜にはウェルカムナイトと称して、国際交流会を開催した。民族衣装を着てダンスを披露する等各国文化の紹介を行った。日本からは、日本に関するクイズや京都の伝統文化についての紹介を行った。

夜は、日本側参加者が集まりリフレクションを行った。秦教授からの講評のあと、学生一人一人が初日のプログラムを終えての感想や、自らの研修目標を踏まえての受講姿勢について、主体的・客観的に考える時間を持った。

8月20日(3日目)

午前には、愛媛大学林職員と香川大学古島職員によるワークショップ「Survival on the moon」を行った。これは月で遭難し、手元に残った15のアイテムの重要度について個人の意見をチーム内でどのように説明しチーム全体のコンセンサスをとるかを考えることを目的としたシミュレーション型の研修である。論理的にランク付けの理由を説明することと、他者の意見を受け入れ、チーム全体の意見をまとめる能力を必要とした。参加学生全員が自分の意見を表明する状況を作り、限られた時間で個人の積極性や他人の意見を引き出すようチーム構成員が努力できているかどうかで、チームごとに成果のバラツキが見られた。

次に、台湾の外部講師 Mr. David Huang によるチームビルディングのセッションが行われた。血液型や星座、誕生月等の共通点を見つけ合うことで学生同士の一体感を高まっ



た。最後には、各グループの代表1名が目で見えた情報を口頭のみでグループメンバーに説明することで立体模型を作成する作業に取り組んだ。

午後には、国立高雄第一科技大学学生部部長 Dr. Chi-Fen Chen 准教授によるケーススタディ・ワークショップが行なわれた。「コミュニケーション」、「会議」、「金銭」、「タイムマネジメント」、「危機管理」、「課題解決」という6つのテーマが設定され、具体的ケースの解決策をチームで考えるものであった。例えば、「コミュニケーション」というテーマのもとでは、教員や先輩と意見が異なる場合にどうするかについてディスカッションがなされた。



次いで、タイの引率スタッフ Mr. Rom Kenneth B. Sales によるワークショップが行われた。リフレッシュの為の体操の後、グループに分かれ、講師の出すテーマを体で表現するゲームを行った。グループの一体感を高めることを目的としたもので、教職員が審査員となり、テーマに一番近い表現ができていないグループにポイントを与えグループ間で競い合うものであった。その後、新聞紙を使い5分間でタワーを作るアクティビティを行った。これは、短い時間でより高くより丈夫で美しいタワーを作成するというもので、学生は自分たちのアイデアを持ち寄り、英語でコミュニケーションしつつ活動した。



その後、各国の大学における各種取り組みの紹介を行った。日本からは愛媛大学生と林職員が、ELS（愛媛大学リーダーズ・スクール）と UNGL 事業の紹介を行った。

夜には、日本側参加者が集まりリフレクションの時間を設けた。2日間のセッションを終え、この間に自分がどのようなアクションを起こしたかについて報告しあった。



8月21日（4日目）

台風のため、当初参加を予定していた Global Tic Award 2013（於：国立台北科技大学）が開催延期となったため、急遽スケジュール変更を行いフィールド研修として、美濃客家文物館 Meinung Hakka Cultural Museum／美濃客家民族村 Meinung Folk Village の見学に赴いた。これは高雄市美濃地

区の 90%以上を占める民族、客家 (Hakka) の伝統的文化や歴史を紹介した施設である。周辺地域とは隔離された地形や家族理念を重んじる文化であることから、言語、衣食住、音楽等で伝統的・独特な風習や生活スタイルが残されている。学生達は、施設見学後、伝統工芸の一つである油紙傘の絵付け体験を行った。

次いで、国立台湾歴史博物館 National Museum of Taiwan History を訪れた。ここは、先史時代からの民族移住から日本の統治、そして現代社会と台湾の歴史を時系列に展示したミュージアムである。

台風の影響で風雨が激しく、終日、文化施設の見学となったが、学生は台湾やタイの学生と意見・感想を交換しながら台湾の歴史・文化について体験することで、知見を広めることができた。



8 月 22 日 (5 日目)

前日同様、フィールド研修を実施した。

はじめに、鳥山頭水庫を訪れた。これは 1920 年から 1930 年の 10 年の歳月を経て竣工されたダムである。建設者は八田与一 (はったよいち) という日本の水利技術者で、日本統治時代に台湾に移り住み台湾の農業水利事業に大きな貢献をしたと言われている人物である。ダムの流域面積は約 60 平方キロメートル、湛水面積は 13 平方キロメートル。記念公園も併設しておりダム工事中の宿舍等関連施設が再現されている。展示館においては資料や写真が展示されており、学生らは八田与一の生涯から、台湾における我が国のインフラ整備への貢献について学んだ。

次いで、国立科学工芸博物館 National Science and Technology Museum、愛河、Liouhe Tourist Night Market (六合国際観光夜市) を見学し、台湾の歴史や文化に触れる機会を持った。2 日間のフィールド研修を通じて、台湾、タイ、日本の学生が終始話し合う姿が見られ、参加学生にとっては大変有益な経験となったと思われる。



8 月 23 日 (6 日目)

午前の最初のセッションとして、グループ対抗のディベートを行った。学生は数日前からこのセッションに向けて自主的な議論・準備をしてきた。課題は **Global/Social Issues** に関するもので、①「原発の新規建築について賛成か反対か」、②「大学の国際化のため学生受入れと送り出し、どちらに重点を置くか」③「スポーツ関連企業において獲得した 5,000 万円の利益を現職員に臨時手当として支給す

るか、施設設備費に投資するか」④「市長である貴方は町の空き地にショッピングモールを建てるか公園を造るか」という4点が設定された。ディスカッションは、各グループの代表が討論者として登壇して展開された。はじめに登壇した学生が3分ずつそれぞれの主張を述べ、その後、質疑応答の時間を設けた。日本人学生の殆どがグループ代表者として登壇し、大勢の前で意見を述べるのみならず、予期せぬ質問に対して機転を利かせつつ回答する経験を持てたことは今後の自信につながったと考えられる。

午後には、まずトイレ掃除を行った。学生たちは、素手でスポンジを持ち、便器を洗うことに最初は戸惑いがあったようだが、この習慣が日本の統治時代に台湾にもたらされたものであることを聞くと、積極的にこれに取り組むようになった。その後、台湾の学生司会による書道体験のセッションを行った。

全てのセッション後、日本側参加者が集まりリフレクションを行った。プログラムへの参加姿勢や意識の違いによって、学生間に成果や自己満足度、自己評価・他者からの評価に差異が生じていたため、改めて当初設定した各自の目標を振り返り、その実現に向かってどのようにアクションを起こすかを発表しあった。



8月24日（7日目：プログラム最終日）

グループ毎に研修成果の発表を行った。パワーポイントや模造紙を利用し、プログラム全体の総括や各個人の感想について報告した。

次いで、閉会式を行った。各国の教職員からコメントがあった後、参加学生に修了証が授与された。

その後、日本からの参加学生は一堂に会してリフレクションを行った。プログラム全体を通しての各人の感想と、ここで得た経験を今後どのように活かしていくかについて、学生・教職員間で共有した。

（この後、学生2名が帰国）。



8月25日（8日目）

早朝、バスにて大学を出発。高雄空港からは学生・教職員7名が、台北・桃園空港からは学生6名がそれぞれ帰国した。

まとめ

今回のプログラムは、ホスト校・高雄第一科技大学の教職員・学生スタッフの多大なる配慮により、大変充実したものとなった。ワークショップ、議論・討論、文化・伝統芸能紹介、大学紹介、施設見学、台湾の歴史・科学等を紹介する施設の見学等、多岐にわたる内容を提供できた。学生らは、プログラム参加に際し、あらゆる場面で成長したいと行動する姿勢で臨み、短期間で成長する姿が観察された。

参考)

- facebook ページ「2013 student Leadership Camp in NKFUST」
<https://www.facebook.com/groups/2013leadershipcamp/>
- プログラムの様子(Youtube 動画。クロージングセレモニーにて使用)
http://youtube.com/watch?feature=share&v=YJea8YEAQ6s&desktop_uri=%2Fwatch%3Fv%3DYJea8YEAQ6s%26feature%3Dshare
- 台湾国内における報道 (台湾中央通信社)
http://www.cna.com.tw/postwrite/Detail/132353.aspx#.Uil_OxiCiM9